

平成24年度  
富山市モビリティ・マネジメント教育推進事業  
報告書

平成25年3月

富山市

## 目 次

第1章 本事業の概要	1
1-1 事業の目的	1
1-2 事業内容と検討体制	2
第2章 協議会および検討部会の設置・運営	3
2-1 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会	3
(1) 目的	3
(2) メンバー	3
2-2 検討部会	3
(1) 目的	3
(2) メンバー	3
2-3 3ヶ年の検討内容とステップのイメージ	4
2-4 平成24年度の取り組み	5
第3章 学習プログラムの企画・実施	6
3-1 学習プログラム確立に向けた考え方	6
(1) 4年間の学習ステップ	6
(2) 学習プログラムのアウトプットイメージ	7
3-2 副読本の掲載に向けて	8
(1) 副読本と学習プログラムの関係	8
(2) 副読本への掲載内容	8
(3) 掲載に向けてのスケジュール	8
3-3 学習プログラムの企画・実施結果	9
3-4 学習プログラムの内容と評価	10
(1) <b>社会科</b> 3年生の学習プログラム	10
(2) <b>社会科</b> 4年生の学習プログラム	14
(3) <b>社会科</b> 5年生の学習プログラム	19
(4) <b>社会科</b> 6年生の学習プログラム	20
(5) <b>総合</b> 4年生の学習プログラム	26
(6) <b>総合</b> 5年生の学習プログラム	31
(7) まとめ	31

第4章 教員に対する学習プログラムの普及啓発	32
4-1 普及啓発の方法	32
4-2 実施結果	33
(1) 教員の先進地視察	33
(2) 社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR	35
(3) ワークショップの開催	35
(4) その他	35
4-3 今後の普及啓発のための取り組み	36
(1) 教員の先進地視察	36
(2) 社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR	36
(3) ワークショップの開催	36
(4) その他	37
第5章 保護者を含めた市民への啓発活動	38
5-1 実施結果	38
5-2 今後の啓発のための取り組み	39
(1) とやまレールライフ・プロジェクトとの連携	39
(2) グランドプラザとの連携	39
第6章 今後のスケジュール	40
6-1 3カ年の進め方	40
6-2 来年度の進め方	41
(1) 今年度のまとめ	41
(2) 今後のスケジュール	43

# 第1章 本事業の概要

## 1-1 事業の目的

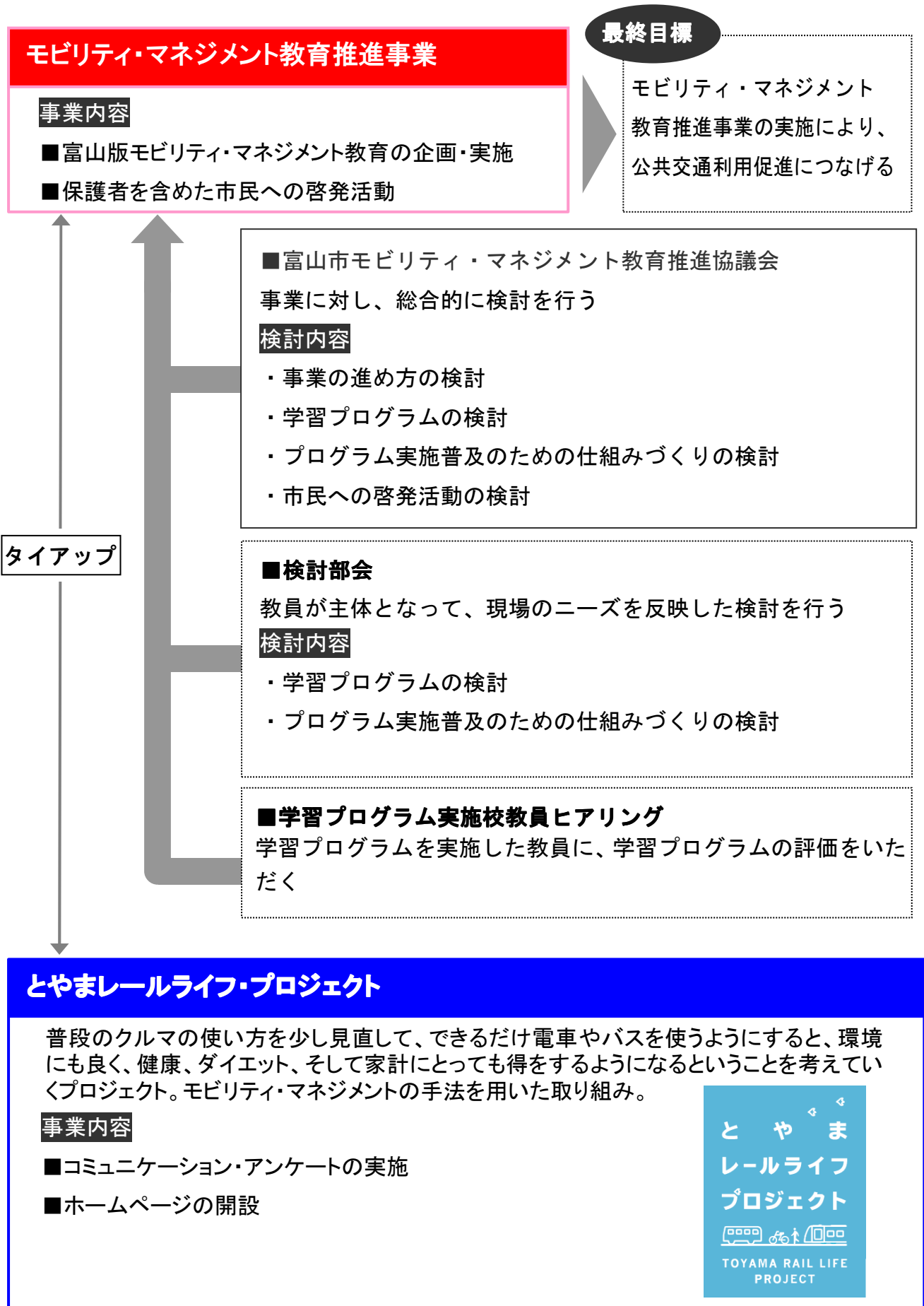
富山市では、「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」の視点から、富山ライトレール及び市内電車環状線の開業、JR高山本線活性化社会実験、幹線バス路線の整備等を順次実施しており、その結果、一部で公共交通利用者数が回復傾向を示すなど、市民の公共交通への関心が高まりつつあることから、これらを契機に平成22年度より「とやまレールライフ・プロジェクト」として、住民一人ひとりが交通手段をかしこく選択できるようなコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）を展開し、公共交通のさらなる利用促進を図っている。

本事業では、特に児童期から環境や社会について意識を向け、公共交通の利用について意識醸成を図ることを目的に、学習プログラムの内容等を検討し、指定小学校で実施する。また、その効果を把握・検証し、「富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラム」の確立に繋げる。

あわせて、保護者を含めた市民に対して啓発活動を展開する一連のモビリティ・マネジメントにも取り組むことで、公共交通の利用促進につなげる。

平成23年度から3カ年は、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の支援を受け検討を行い、平成26年度からの事業の本格実施を目指す。

## 1-2 事業内容と検討体制



## 第2章 協議会および検討部会の設置・運営

### 2-1 富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会

#### (1) 目的

本事業に対して総合的な検討を行うため、富山市モビリティ・マネジメント教育推進協議会を設置している。

#### (2) メンバー

##### ○委員

所 属	氏 名
金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系 教授	高山 純一
玉川大学 教育学部 教育学科 教授	寺本 潔
筑波大学 大学院 システム情報系 講師	谷口 綾子
富山市立五福小学校 校長	柳内 誠治
富山市小学校教育研究会 総合的な学習の時間部会 部長	岡田 浩子
富山市小学校教育研究会 社会科部会 部長	戸田 哲彦
富山市教育委員会 学校教育課 主幹指導主事	吉藤 重弘
富山市PTA連絡協議会 会長	水野 雅人
国土交通省 北陸信越運輸局 交通環境部 環境課 課長	北角 武史

### 2-2 検討部会

#### (1) 目的

現場のニーズに合った学習プログラムの内容等の検討を目的に、日頃から熱心に小教研活動（社会科部会、総合部会）に取り組んでいる教員の方々から構成される検討部会を設置している。

#### (2) メンバー

所 属	小学校	氏 名	担当学年
実践校	富山市立五福小学校	柳内 誠治(座長)	校長
社会科部会	富山市立保内小学校	劔田 秀則	3年
	富山市立速星小学校	津幡 和英	4年
	富山市立五福小学校	藤嶋 広樹	6年
総合部会	富山市立呉羽小学校	堀 泰洋	5年
	富山市立東部小学校	渡辺 純恵	

## 2-3 3ヶ年の検討内容とステップのイメージ

富山版モビリティ・マネジメント教育を確立し、教員や保護者を含めた市民への普及を目指すため、本事業の検討項目を大きく3つに設定する。

**検討項目1**：富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの企画・実施

**検討項目2**：富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムの教員への普及啓発

**検討項目3**：富山版モビリティ・マネジメントの保護者を含めた市民への啓発活動

それぞれの検討項目について、以下のように3カ年進める。

	平成23年度 導入年	平成24年度 ブラッシュアップ年	平成25年度 確立年
<b>検討項目1</b> 学習プログラムの 企画・実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 検討</li> <li>■ 実施 (2プログラム)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年生社会科</li> <li>・ 4年生社会科</li> </ul> </li> <li>■ 実施成果とりまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 検討</li> <li>■ 実施 (4プログラム)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年生総合</li> <li>・ 3年生社会科</li> <li>・ 4年生社会科</li> <li>・ 6年生社会科</li> </ul> </li> <li>■ 実施成果とりまとめ</li> <li>■ 副読本掲載に向けた 検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 検討・確立</li> <li>■ 実施 (6プログラム)               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年生社会科</li> <li>・ 4年生社会科</li> <li>・ 5年生社会科</li> <li>・ 6年生社会科</li> <li>・ 4年生総合</li> <li>・ 5年生総合</li> </ul> </li> <li>■ 実施成果とりまとめ</li> <li>■ 教材完成</li> <li>■ 副読本掲載に向けた 検討</li> <li>■ MM教育版カレンダー の作成</li> </ul>
<b>検討項目2</b> 教員への普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 普及のための仕組み づくりの検討</li> <li>■ 公開授業の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4年生社会科 (五福小学校)</li> </ul> </li> <li>■ 教員の先進地視察               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 札幌市</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 普及のための仕組み づくりの検討</li> <li>■ 普及啓発活動の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合的な学習の時間 部会でのPR</li> <li>・ 社会科部会でのPR</li> </ul> </li> <li>■ 教員の先進地視察               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金沢市</li> <li>・ 京都府</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 普及のための仕組み づくりを検討・確立</li> <li>■ 普及啓発活動の実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合的な学習の時間 部会でのPR</li> <li>・ 社会科部会でのPR</li> <li>・ ワークショップの開催</li> </ul> </li> <li>■ 教員の先進地視  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仙台市 (予定)</li> </ul> </li> </ul>
<b>検討項目3</b> 保護者を含めた 市民への啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ とやまレールライフ・ プロジェクトフォーラ ムとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ JCOMMとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ とやまレールライフ・ プロジェクトとの連携</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 関係機関との調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 関係機関との調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 関係機関との調整</li> <li>■ 支援制度終了後の 実施計画の策定</li> </ul>

## 2-4 平成24年度の取り組み

### 学習プログラムの教員への普及啓発（5月7日）

総合的な学習の時間の部会にて事業の説明とワークショップの開催

### 学習プログラムの企画・実施（5月29・30日）

「くしとだんごのまちづくり」（3年生社会科）を富山市立五福小学校で実施

### 第1回検討部会（5月29日）

学習プログラム「くしとだんごのまちづくり」の評価  
4年生総合的な学習の時間の学習プログラムの検討  
社会科副読本掲載に向けての検討

### 保護者を含めた市民への普及啓発（8月3～5日）

第7回日本モビリティ・マネジメント会議での発表

### 学習プログラムの教員への普及啓発（8月6日）

社会科副読本編集委員会にて事業の説明と連携依頼

### 学習プログラムの企画・実施（10月10・11日）

『おでかけ定期券』って何だろう？」（4年生総合）を富山市立東部小学校で実施

### 第2回検討部会（10月11日）

学習プログラム『おでかけ定期券』って何だろう？」の評価  
3・6年生社会科の学習プログラムの検討  
社会科副読本掲載に向けての検討

### 第2回協議会（11月5日）

学習プログラム確立に向けた考え方について検討  
学習プログラムの内容について検討  
教員への普及啓発について検討

### 学習プログラムの教員への普及啓発（11月12日）

社会科部会にて事業の説明

### 学習プログラムの教員への普及啓発（11月16日）

校長会にて事業の説明

### 学習プログラムの企画・実施（12月3日）

「富山の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」(6年生社会科)を富山市立五福小学校で実施

### 第3回検討部会（12月3日）

学習プログラム「富山の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」の評価  
4年生社会科の学習プログラムの検討  
社会科副読本掲載に向けての検討

### 学習プログラムの企画・実施（1月16日）

「富山県の交通の様子」（4年生社会科）を富山市立速星小学校で実施

### 第4回検討部会（1月16日）

学習プログラム「富山県の交通の様子」の評価  
3年生社会科の学習プログラムの検討  
来年度の進め方について検討

### 第3回協議会（2月19日）

学習プログラムの内容について検討  
教員への普及啓発について検討  
市民への啓発活動について検討  
来年度以降のスケジュールについて検討

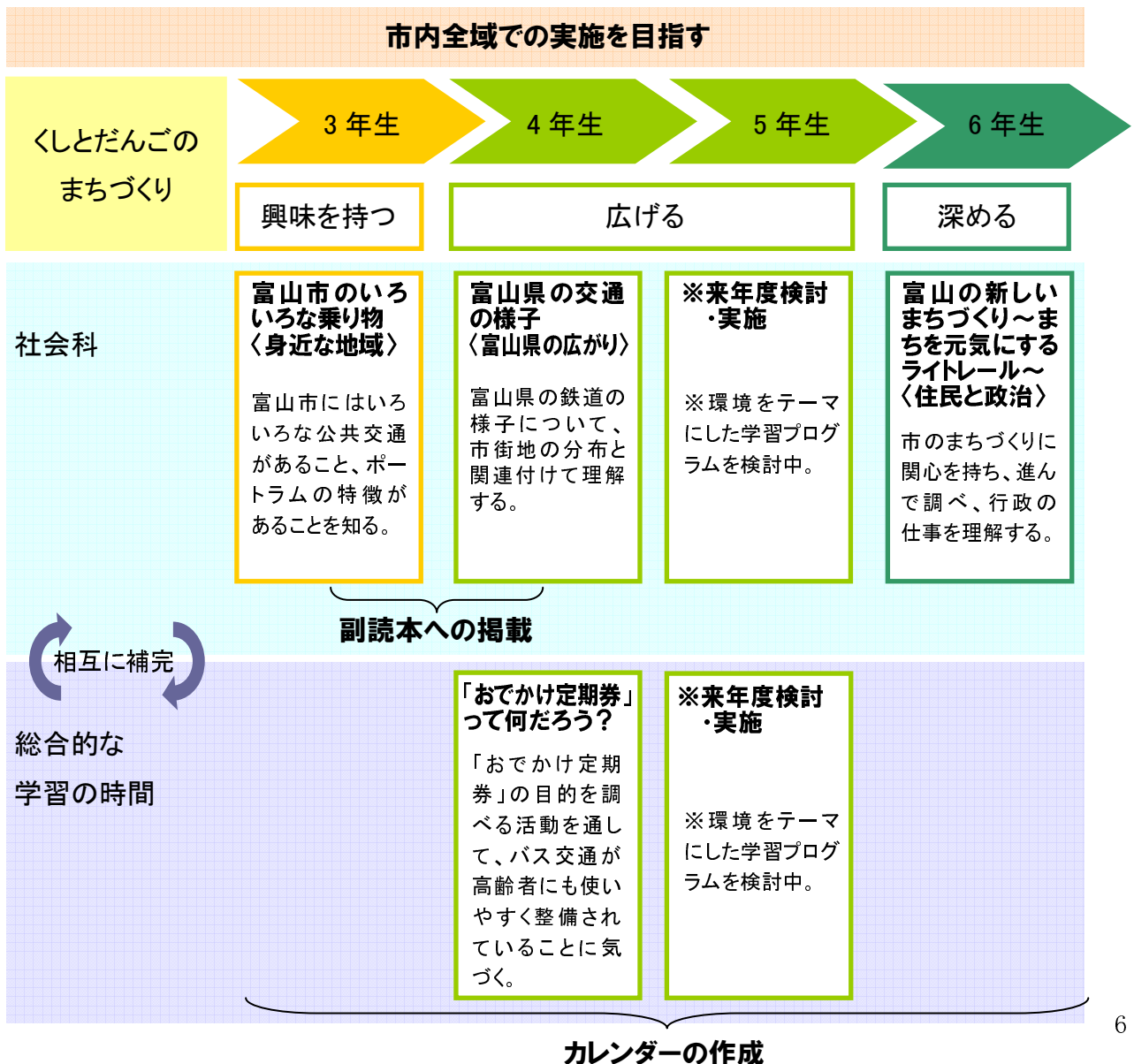


### 第3章 学習プログラムの企画・実施

#### 3-1 学習プログラム確立に向けた考え方

##### (1) 4年間の学習ステップ

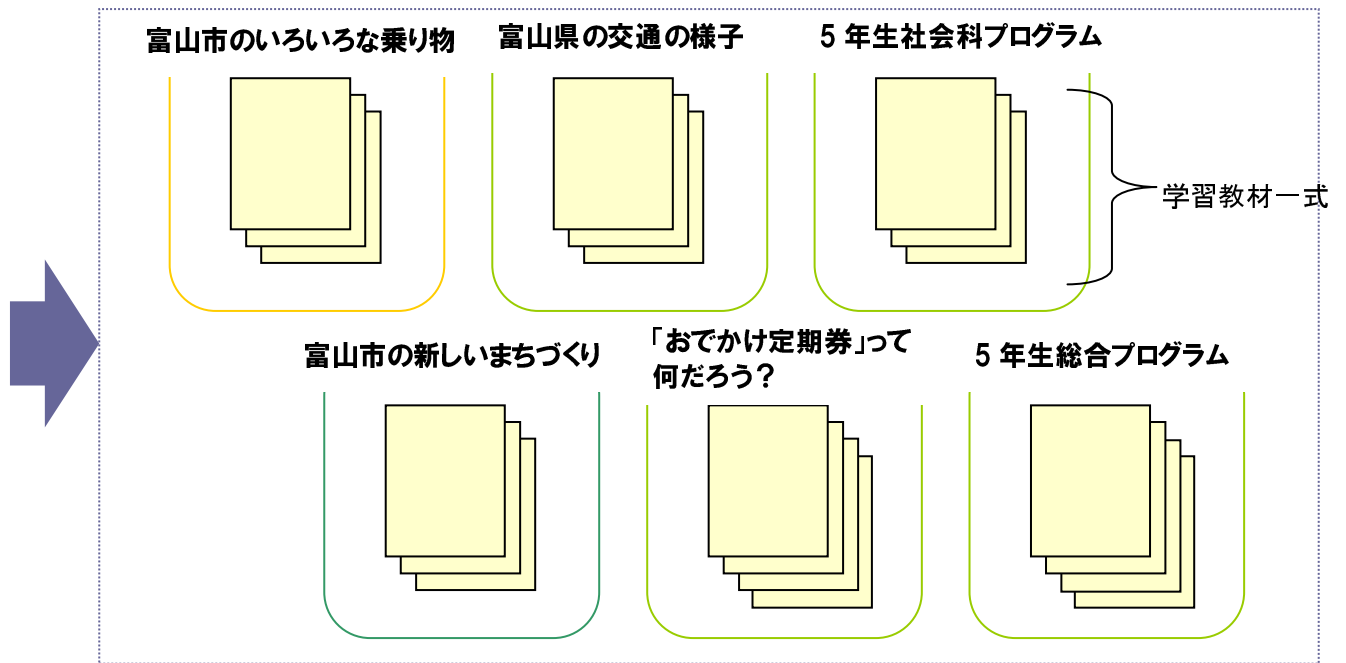
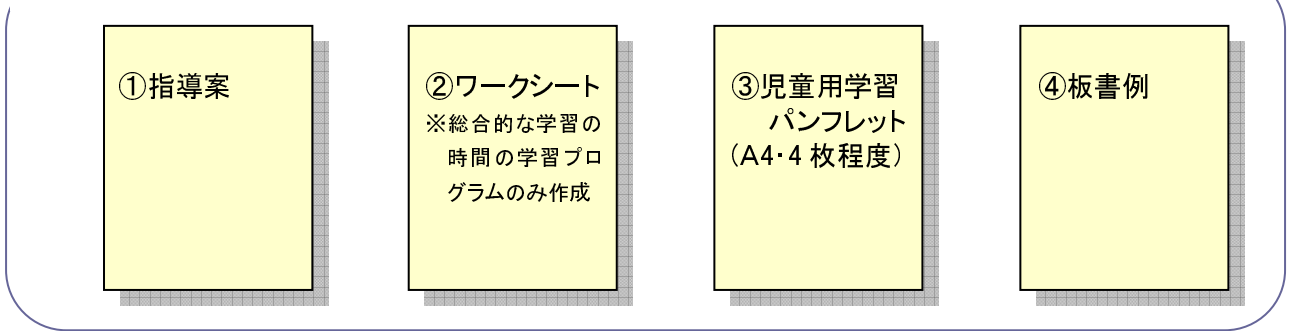
- ・モビリティ・マネジメント教育推進事業は、「くしとだんごのまちづくり」の理解を通じた公共交通利用の促進を最終目標としている。1年間だけの実施ではモビリティ・マネジメント教育は児童に定着しないため、3～6年生の4学年においてステップを踏みながら市内全域での学習プログラムの実施を目指す。
- ・社会科では4つ、総合的な学習の時間では2つの学習プログラムを作成し、相互に補完しながらモビリティ・マネジメント教育を推進する。
- ・社会科において、3・4年生では、教員が取り組みやすいよう3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載を目指す。また、社会科や総合的な学習の時間など、幅広い関連づけを行って実施していただくことを目指し、ESDカレンダーのモビリティ・マネジメント教育版カレンダーの作成を目指す。



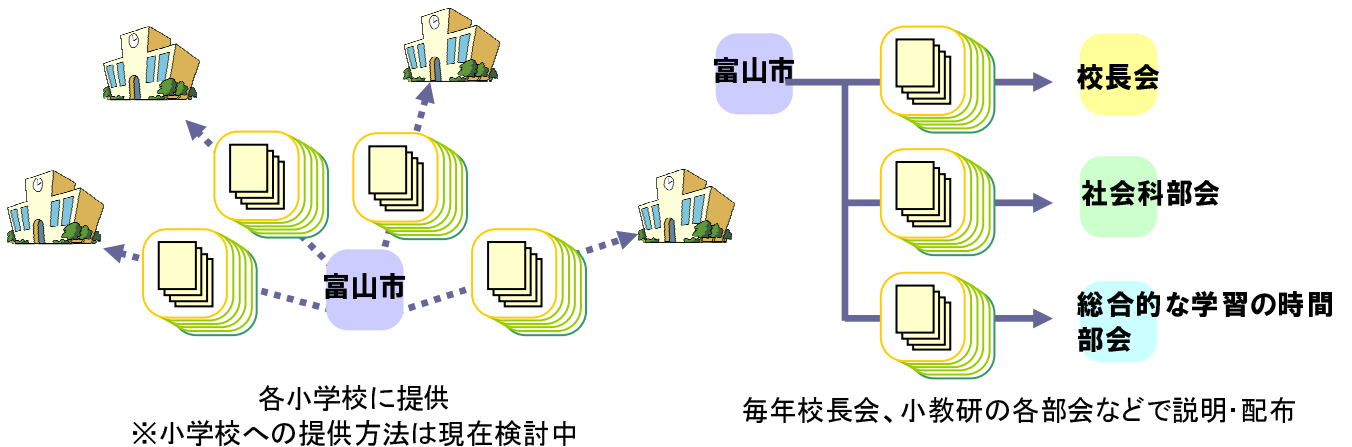
(2) 学習プログラムのアウトプットイメージ

- ・各学習プログラムにつき、①指導案、②ワークシート（総合的な学習の時間の学習プログラムのみ作成）、③児童用学習パンフレット、④板書例の一式を用意する。

学習プログラムの教材一式

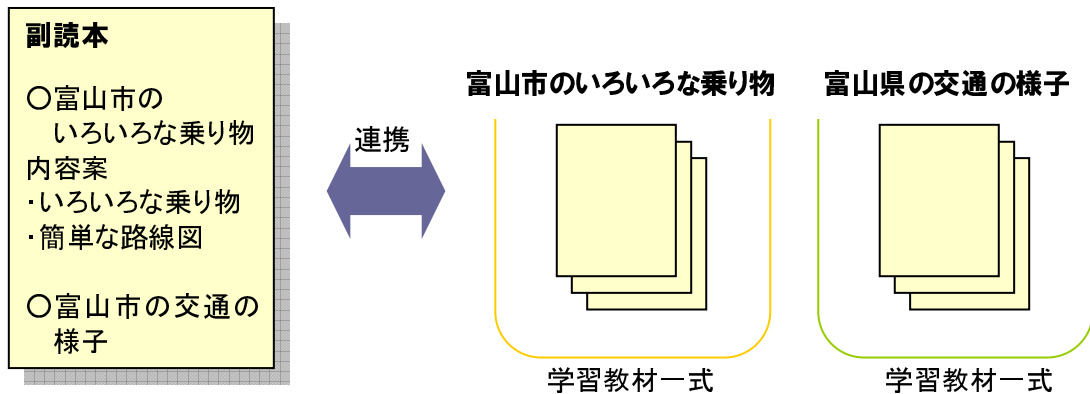


※学習教材をモビリティ・マネジメント教育の普及のために使用する将来的なイメージ



### 3-2 副読本の掲載に向けて

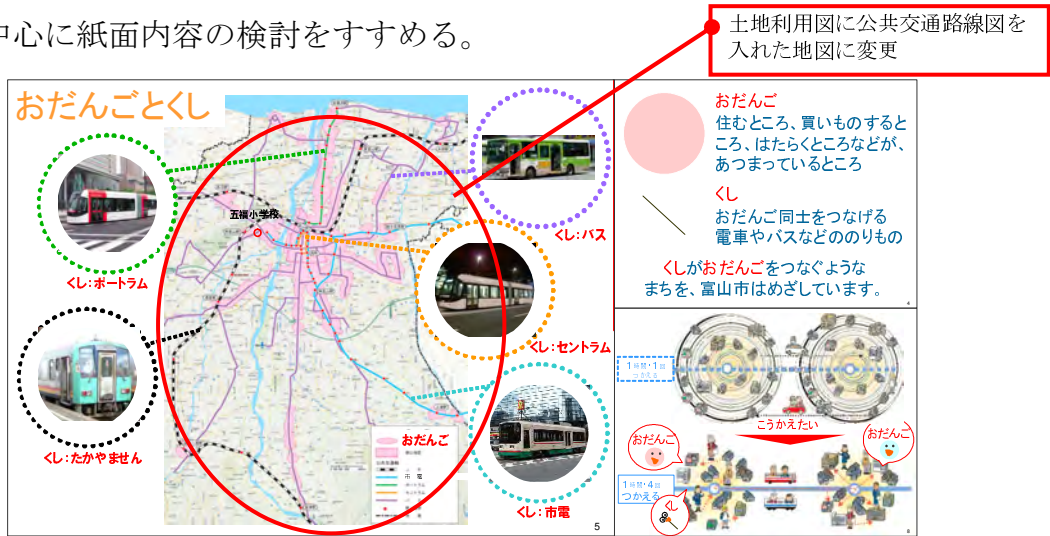
#### (1) 副読本と学習プログラムの関係



#### (2) 副読本への掲載内容

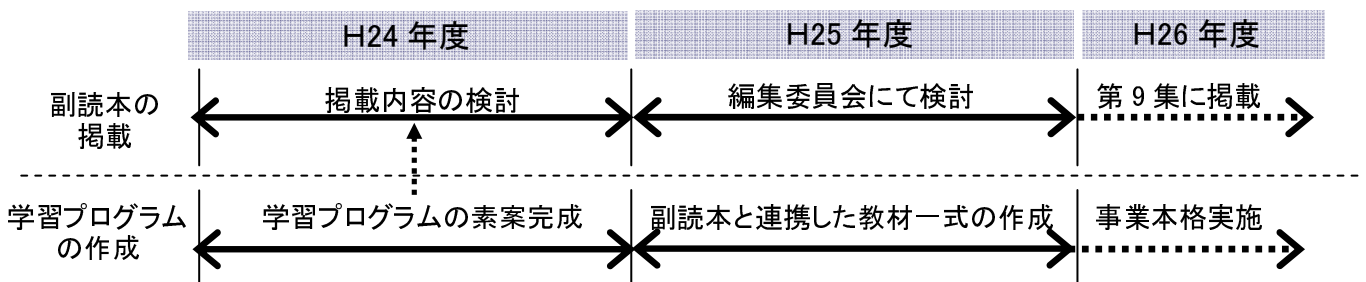
現在の掲載案（下図）をもとに、社会科の3・4年生の学習プログラムの内容を踏まえて、掲載内容を確定させる。

平成24年度に引き続き平成25年度も、編集委員でもあり検討部会メンバーでもある教員を中心に紙面内容の検討をすすめる。



#### (3) 掲載に向けてのスケジュール

平成25年度中に、平成26年度版第9集への掲載を目指して掲載内容を確定させる。副読本への掲載に合わせ、社会科の3・4年生の学習プログラムについても完成させる。



### 3-3 学習プログラムの企画・実施結果

学習プログラムの企画と実施結果を以下に示す。

#### ○社会科

学 年	企 画	実 施
3 年生	くしとだんごのまちづくり	○
	富山市のいろいろな乗り物	—
4 年生	富山県の交通の様子	○
5 年生	(未定)	—
6 年生	富山市の新しいまちづくり	○

#### ○総合的な学習の時間

学 年	企 画	実 施
4 年生	「おでかけ定期券」って何だろう？	○
5 年生	(未定)	—

表 学習プログラム実施詳細

#### ○社会科

	学習プログラム	実施小学校	クラス数	実施日
3 年生	くしとだんごのまちづくり	富山市立 五福小学校	2 クラス	平成 24 年 5 月 29 日(火) 30 日(水)
4 年生	富山県の交通の様子	富山市立 速星小学校	1 クラス	平成 25 年 1 月 16 日(水)
6 年生	富山市の新しいまちづくり	富山市立 五福小学校	1 クラス	平成 24 年 11 月 29 日(木) 30 日(金) 12 月 3 日(月)

#### ○総合的な学習の時間

	学習プログラム	実施小学校	クラス数	実施日
4 年生	「おでかけ定期券」って何だろう？	富山市立 東部小学校	1 クラス	平成 24 年 10 月 10 日(水) 11 日(木)

### 3-4 学習プログラムの内容と評価

#### (1) **社会科** 3年生の学習プログラム

##### ①実施結果

##### i) 実施概要

実施日：平成24年5月29日（火）、30日（水）3時間程度

実施場所：富山市立五福小学校

実施者：教員

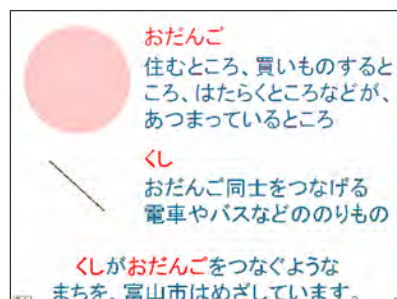
対象校・学年：富山市立五福小学校3年生2クラス

学習プログラム：くしとだんごのまちづくり

##### ii) 学習プログラム内容（昨年度実施プログラム）

2クラス合同で富山市の「くしとだんごのまちづくり」について座学を1時限行い、貸切バスで富山駅北や城川原の車両基地へ移動の後、「くし」の1つであるポートラムの乗車体験と車両基地見学を2時間程度実施した。

学習の流れ	時間配分	実施内容
座学	3分	児童集合・開会あいさつ
	20分	くしとだんごのまちづくり -ポートラムを知ろう- パワーポイント説明
	12分	意見交換
	10分	調べたいこと・確認したいこと・聞きたいことをまとめる
富山駅北へ移動し	30分	富山駅北へ貸切バスで移動
ポートラム乗車体験	15分	富山駅北から城川原までポートラムで移動
車両基地見学 (くし体験) A班	35分	車両基地見学→城川原駅で電停説明、トイレ休憩
小学校へ移動	30分	富山市立五福小学校へ貸切バスで移動



パワーポイントの一部

### iii) 授業風景



### iv) 新聞掲載記事

○5月30日(水) 北日本新聞

富山市が2011年度から進めるモビリティ・マネジメント教育推進事業の一環。同事業は12年度に児童向け学習プログラムの完成を目指している。五福小は同事業のモデル校に指定されている。

児童たちは、住まいや商店などが集まる場所を「おだんご」おだんごをつなぐ役割をする公共交通を「くし」に見立て、公共交通の大切さを学習。スライドで、市中心部では「くし」のセントラムの周りに大きな「おだんご」ができていく様子を確認した。

30日は、富山ライトレールに乗車体験する予定。

■公共交通の役割学ぶ 富山市交通環境学習が29日、同市五福の五福小学校で行われ、3年生72人がまちづくりにおける公共交通の役割について理解を深めた。写真。

車と公共交通を適切に選択できる大人になってもらうと、

○5月30日(水) 富山新聞

富山市の交通環境学習Ⅱ写真Ⅱは29日、同市五福小で行われ、3年生75人がライトレールなど公共交通の役割に知識を深めた。

児童は2クラスで担任から「くしとおだんごのまちづくり」と題した講義を聞き、市電やJR高山線、ポートルムなどの交通機関の整備に伴い、周辺にビルや住居、公共施設が建てられていることを学んだ。30日は、ポートルムの乗車体験や同市城川原の車両基地の見学などを行う。

富山・五福小

## ②検討部会でのご意見

- ・ 富山のまちには、いろいろな公共交通があり便利だということが交通環境学習の到達点として考えられる。
- ・ 6年生の学習プログラムでも、くしとだんごのまちづくりに触れる予定であるため、3年生では軽く触れる程度で良い。 学習の順番は、いろいろな公共交通を知り、その後にくしとだんごを学習すると良い。
- ・ 全市で学習プログラムを展開していく際に、乗車体験を確実に実施できるのか検討が必要。
- ・ ポートルム以外の公共交通の学習プログラムを準備することが望ましい。
- ・ 富山市の公共交通の代表例としてポートルムのみを扱えばよい。
- ・ 全市必須の学習事項とオプションで学習することを明確化することが必要である。
- ・ 現在のPPTの内容を基本としながらワークシートを作成したらよい。

## ③今後のとりくみ

社会科 3年生の学習プログラムについて、検討部会で「くしとだんごのまちづくり」は社会科 6年生の学習プログラムで学習することとし、3年生では軽く触れる程度で良いというご意見をいただいた。また、富山市の公共交通の代表例としてポートルムを扱えば良いが、乗車体験を含めると全市での実施が難しいというご指摘もいただいた。

- 3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載を目指す。
- 代表例としてポートルムを扱い、「くしとだんごのまちづくり」についても軽く触れる学習プログラムに改善する。
- 富山市立五福小学校で教員による公開授業を実施し、学習プログラムを確立する。  
(平成25年5月実施予定)
- その他、複数の市内小学校で教員による授業を実施予定。(実施時期は未定)

## ii) 改善案

学習プログラム：富山市のいろいろな乗り物

学習のねらい：富山市にはいろいろな公共交通があることやポートルムの特徴を知り、公共交通に興味を持つ。

教科単元：社会科 身近な地域

時間数：1時限

授業概要：富山市にはさまざまな公共交通があることや富山市を代表するポートルムの特徴について知ることにより、自分たちの住む地域や公共交通への愛着が深まることが期待される。

授業の展開例：

	学習活動	指導上の留意点
15分	<p>1. 公共交通と土地利用が結びついていることをおさえる</p> <p>■ 指示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童用パンフレットの地図と写真を見てみましょう。</li> </ul> <p>■ 発問 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富山市の様子が分かる地図を見て乗り物はどこを走っていますか？市の真ん中や外側、山手や海側などの言葉を使って説明して下さい。</li> </ul> <p>■ 発問 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富山市にはどんな種類の乗り物が走っていますか。</li> </ul> <p>■ 発問 3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なんでこんなにたくさんの種類の乗り物があるのでしょうか。（いつこれらの乗り物を使いますか。）</li> </ul> <p>※土地利用と路線図の両方を示した地図が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公共交通は、店や会社の多いところ、住宅の多いところに走っていることや海側や山側にも走っていることに気づくように促す。</li> <li>・ 店や会社の多いところ（中心部）にはセントラムやバス、その周辺の住宅の多いところ（郊外 1）には路面電車やバスが走っており、その周辺の田の多いところ（郊外 2）ではバスだけしか走っていないところもあることに気付くように促す。</li> <li>・ 中心部に近いほど、乗り物に乗ったり降りたりする人が多くなることを児童に伝える。</li> <li>・ 乗り降りする人の多さによって、乗り物の大きさを変えていること、遠くに行くため、クルマを運転できない人（高齢者、高校生、子ども、免許を持っていない人など）も行きたい場所に行けるように公共交通が整備されていることをおさえる。</li> </ul>
5分	<p>2. くしとだんごのまちづくりについて知る（児童用パンフレットで説明）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 店や会社の多いところや、住宅の多いところを誰でも使える公共交通でつなぎ、車が無くても移動できるまちを目指していることを児童に伝える。</li> </ul>
15分	<p>3. ポートラムの特徴を知り興味をもつ</p> <p>■ 発問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポートラムについてどのようなことがわかりましたか？（児童用パンフレットで説明後）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童用パンフレット最後のクイズにも回答させる。</li> <li>・ ポートラムの乗車する機会に、説明内容を確認するように促してもよい。</li> </ul>
10分	<p>4. 富山市のいろいろな乗り物についての感想をノートにまとめる</p>	



## (2) 社会科 4年生の学習プログラム

### ①実施結果

#### i) 実施概要

実施日：平成25年1月16日（水）1時限

実施場所：富山市立速星小学校

実施者：教員

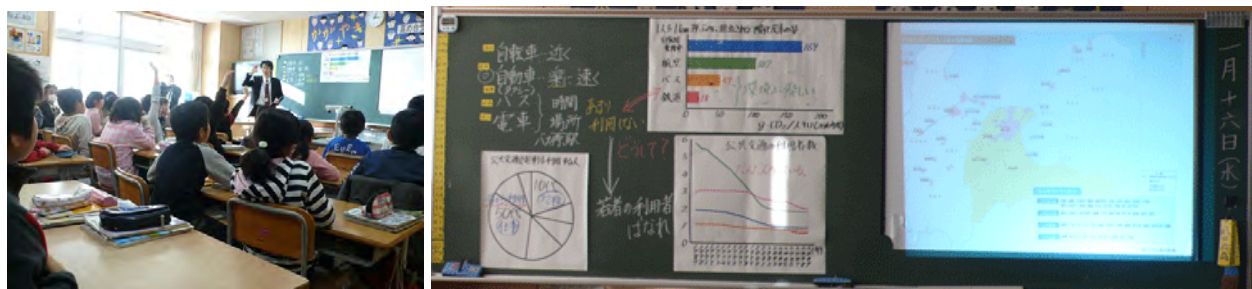
対象校・学年：富山市立速星小学校4年生1クラス

学習プログラム：富山県の交通の様子

#### ii) 学習プログラム内容

プログラム名	「富山県の交通の様子」
学習のねらい	・ 鉄道の大切さについて考えるとともに、富山県の鉄道の様子について、市街地の分布と関連付けて理解する。
時限数	・ 1時限
学習内容	■ 学習課題 富山県の鉄道はどのように広がっているのだろうか。 ・ 乗り物による二酸化炭素排出量の違いや公共交通のひとつである鉄道利用者の年代を知り、公共交通の大切さや問題点について考える。 ・ JR高山本線の路線図と市街地を関連付けて考える。 ・ 富山県の鉄道の様子と市街地を関連付けて考える。 （鉄道駅の位置や停車する駅の順番、市街地の場所の情報をもとに、児童用パンフレットに鉄道の運行しているルートを書き入れる作業を実施。） ・ 学習の振り返りを行う。

#### iii) 授業風景



iv) 児童用パンフレット

## と やま りん こ う つ う よ う き ゃ う 富山県の交通の様子

**● 交通とは？**  
「人」や「もの」を運ぶための大切な動きです。

**● 公共交通とは？**  
交通のうち、「電車」や「バス」など、**だれでも利用できる乗り物**のことをいいます。

**↓ 環境に優しい公共交通（バスや電車）**  
1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量

交通手段	排出量 (g-CO2/人キロ(2019年))
自動車	169
航空	102
バス	49
鉄道	18

（出典：国土交通省HP）

**↓ 公共交通（電車）を利用する人**  
JR高山本線を利用する人(平日)

年代	割合
70歳以上	5%
60代	13%
50代	27%
40代	15%
30代	11%
20代	9%
10代	20%

（出典：H20年度 富山県調査(平日)）

**↓ 公共交通の利用者数**

（出典：富山県統計）

**↓ JR高山本線（電車）と市街地（住宅の多いところ）**

**凡例**  
● 市街地（住宅の多いところ）  
— 市や郡のさかい  
--- 町や村のさかい

**富山駅前**  
**越中八尾駅前**

外面

**↓ 富山県内の市街地（住宅の多いところ）と主な電車の駅**

電車の線路が走っている場所を予想して、路線を書き入れてみよう！

**富山県内の主な鉄道**

- JR北陸本線** 石動—福岡—越中八尾—高岡—越中大門—小杉—興野—富山—東富山—水橋—滑川—東滑川—魚津—黒部—生地—西入善—入善—泊—越中富田
- JR高山本線** 富山—西富山—南中津坂—蓮屋—千屋—越中八尾—東八尾—磐津—堀原—張谷
- JR城端線** 高岡—一谷—林—戸田—油田—藤波—東野尻—高徳—福野—東石鳥—福光—越中山田—城端
- JR水見線** 高岡—越中中川—堀野—伏木—越中国分—雨降—島尾—水見

富山市交通政策課

中面

v) 新聞掲載記事

○1月17日(木) 北日本新聞



### 公共交通の役割に理解

速星小で環境学習

富山市の交通環境学習が16日、同市速星小学校（堀雅恵校長）で開かれ、4年生30人が公共交通機関の役割や二酸化炭素排出量など環境保全について理解を深めた。

自家用車と公共交通を適切に利用できる大人になってもらおうと市内の小学校で開いており4回目。社会科の時間を使って電車の役割を考えた。

子どもたちは、自家用車に比べて電車やバスを使わない理由について「運行する時間が決まっているから」「好きな時に好きな場所に行けない」などと発表。担任の教諭が1人を1キビに運ぶ際に出る二酸化炭素量を示し、電車の排出量が少ないことを紹介すると「電車は環境に良い」などと意見が出た。

県の地図に電車の路線を書き込む実習も実施。子どもたちはペンを走らせながら、県内の各地に駅があり利便性が良いことなどを学んだ。

電車の役割や環境保全について学ぶ子どもたち

○1月17日(木)富山新聞



### 鉄道の役割学ぶ

富山・速星小

富山市の交通環境学習は16日、同市速星小で行われ、4年生30人が県内の鉄道について学び、公共交通の大切さに理解を深めた。

児童は担任とともに、さまざまな乗り物の二酸化炭素の排出量を比較。鉄道が環境に優しい乗り物であることや、県内の主要な駅を線で結びながら、住民の生活を支えていることを学んだ。

社会科の授業の一環として行われ、この日の内容をもとに、同校では県内の市街地についての学習を進める。

意見を発表する児童  
富山市速星小

## ②評価

### i) 児童への意識変化アンケート結果

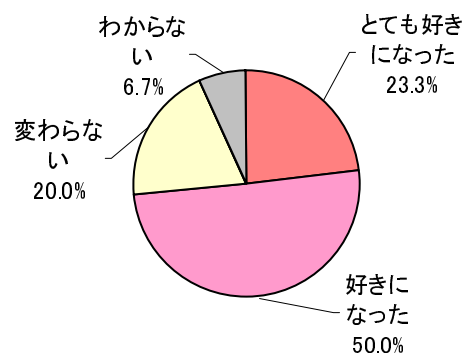
学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の全学習ステップにおいて、7割以上の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

#### 学習ステップ1: 公共交通を好きになる

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？

N= 30		
項目	件数	割合
とても好きになった	7	23.3%
好きになった	15	50.0%
変わらない	6	20.0%
きれいになった	0	0.0%
すごくきれいになった	0	0.0%
わからない	2	6.7%
無回答	0	0.0%
合計	30	100.0%

73.3%

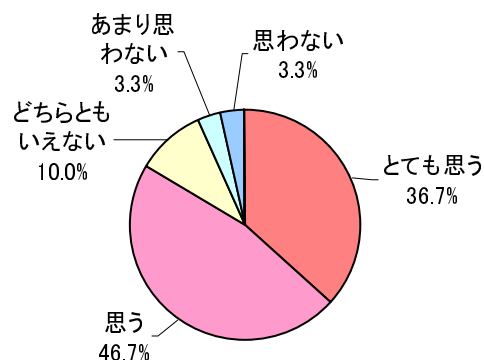


#### 学習ステップ2: 公共交通を利用したいと思う

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？

N= 30		
項目	件数	割合
とても思う	11	36.7%
思う	14	46.7%
どちらともいえない	3	10.0%
あまり思わない	1	3.3%
思わない	1	3.3%
わからない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	30	100.0%

83.4%

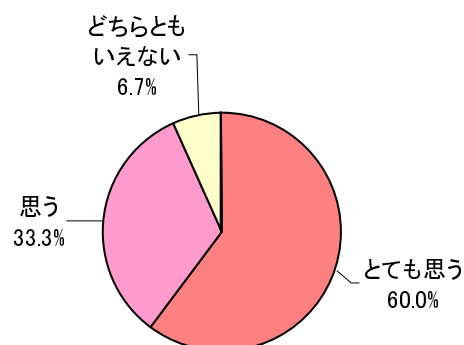


#### 学習ステップ3: 環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問: 授業を受けて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？

N= 30		
項目	件数	割合
とても思う	18	60.0%
思う	10	33.3%
どちらともいえない	2	6.7%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	30	100.0%

93.3%



## ii) 検討部会でのご意見

- ・ 4年生社会科で公共交通を扱うことは、十分可能である。
- ・ 富山版モビリティ・マネジメント教育の学習内容は、一市民であり、これから大人になっていく児童に学習して欲しい内容である。
- ・ 「1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量」のグラフに対する児童の反応が良かった。
- ・ 公共交通の良さを環境に良いという点だけで主張すると、電気自動車の方が良いと考える児童が出てくる。環境面だけではなく、誰でも利用できるという面も主張することが重要である。
- ・ 授業前半の富山版モビリティ・マネジメント教育の部分と授業後半の社会科の部分は、学習のねらいが明らかに違う。この2つを融合させる場合、社会科を中心に考えることになる。社会科のなかに、どのようにして富山版モビリティ・マネジメント教育の要素を入れ込むかを考えることが必要である。児童は公共交通をあまり使っていないという実態がある。児童用パンフレットの白地図を使って、富山県の鉄道の広がり进行学习したうえで、児童が普段から鉄道を利用していない実態を確認する。そのうえで、公共交通の役割を確認すれば、社会科に富山版モビリティ・マネジメント教育の要素を入れ込むことができる。
- ・ 授業を行う教員の負担を考えると、授業時間は1時限のままとしたい。

## ③今後のとりくみ

社会科4年生の学習プログラムは、児童から高評価を得ている。ただし、検討部会において、時限数は1時限のままとし、社会科の内容に重きをおいた授業展開に方向転換してはどうかというご意見をいただいた。

- 3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載を目指す
- 時限数は1時限のままとし、社会科の内容に重きをおいた授業展開への方向転換を検討する。
- 市内1校で教員による公開授業を実施し、学習プログラムを確立する。(平成25年12月実施予定、実施校は未定)

### (3) **社会科** 5年生の学習プログラム

#### ①学習プログラム（案）

##### ○案1：「環境を守るわたしたち」（2～3月実施）と関連付けた学習プログラム

###### 《学習の流れ》

- ・富山市の自動車保有台数が増加していることを児童に示す。
- ・自動車からの二酸化炭素排出量が多いことを児童に示す。
- ・環境に優しい（二酸化炭素排出量の少ない）移動手段について考える。
- ・二酸化炭素排出量を減らすことを目的の1つとしている富山市の「くしとだんごのまちづくり」について学習する。

##### ○案2：「自動車をつくる工業」（10月実施）と関連付けた学習プログラム

###### 《学習の流れ》

- ・自動車工業は日本にとって大切な産業だが、自動車は二酸化炭素排出量が多く、過度に使うことで環境への負荷が大きいことを児童に示す。
- ・普段、児童の家族が車を使う頻度や目的を振り返る。
- ・適度な自動車の利用方法や環境に優しい（二酸化炭素排出量の少ない）移動手段について考える。
- ・二酸化炭素排出量を減らすことを目的の1つとしている富山市の「くしとだんごのまちづくり」について学習する。

#### ②今後のとりくみ

上記、学習プログラム（案）をもとに実施校教員と検討を行い、学習プログラムの企画・実施を行う。

●市内1校で教員による公開授業を実施する。（実施時期、実施校は未定）

(4) **社会科** 6年生の学習プログラム

①実施結果

i) 実施概要

実 施 日：平成24年11月29日（木）、30日（金）12月3日（月）3時限

実 施 場 所：富山市立五福小学校

実 施 者：教員

対象校・学年：富山市立五福小学校6年生1クラス

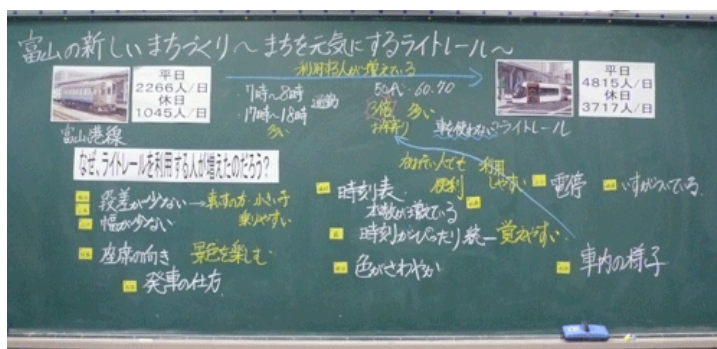
学習プログラム：富山市の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～

ii) 学習プログラム内容

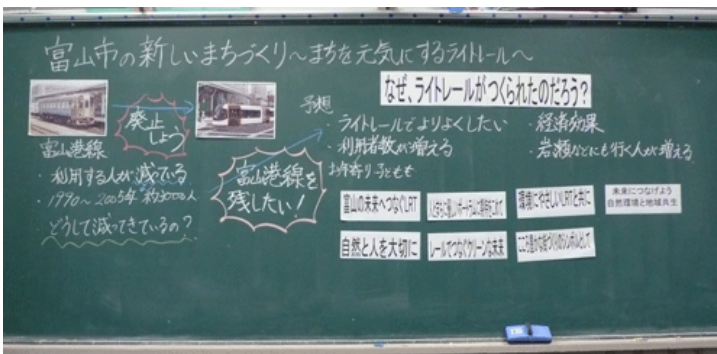
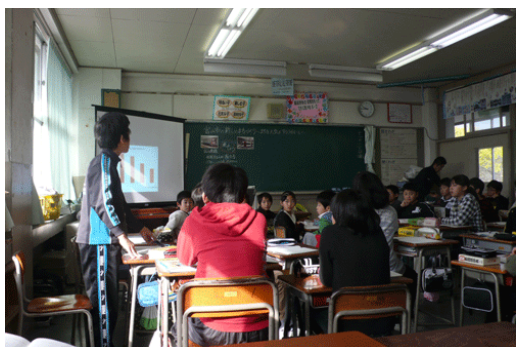
プログラム名	「富山市の新しいまちづくり～まちを元気にするライトレール～」
学習のねらい	・ライトレールと富山港線を比べ、ライトレールの良さに気付く。 ライトレールがつくられた理由や富山市の目指すまちづくりについて、自分なりの考えを持つ。
時限数	・3時限
学習内容	<b>■学習課題</b> なぜ、ライトレールを利用する人が増えたのだろう。 なぜ、ライトレールがつくられたのだろう。 <b>○1時限目</b> ・ライトレールについて知る。 ・ライトレールと富山港線の利用者数を比べ、利用者数が増えた予想を立てる。 ・ライトレールの利用者が増えた理由を調べる。 ・ライトレールについて分かったことをまとめる。 <b>○2時限目</b> ・富山港線の利用者数減少の資料を読み取る。 ・ライトレールがつくられた理由を予想する。 ・ライトレールがつくられた理由について資料を使って調べる。 ・ライトレールがつくられた理由について自分の考えをまとめる。 <b>○3時限目</b> ・調べてまとめたことをもとに、話し合う。 ・ライトレールがつくられた理由について、児童用パンフレットに掲載されている交通政策課 東福さんの話を読む。 ・ライトレールを使って、富山市がどんなまちづくりを目指しているのか、自分の考えをまとめる。

### iii) 授業風景

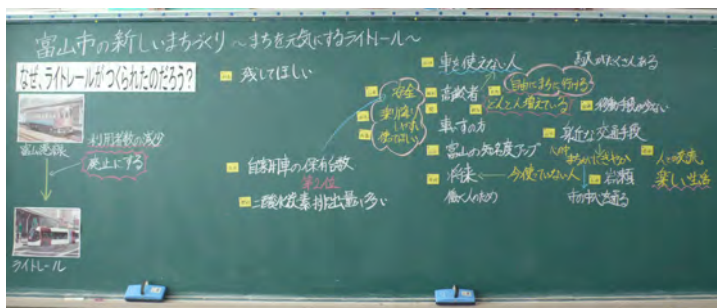
#### ○ 1 時限目



#### ○ 2 時限目



#### ○ 3 時限目





iv) 児童用パンフレット

### なぜ、ライトレールがつくれたのだろう？

世帯あたりの自動車保有台数

1.72(台)  
1世帯あたり

全国第2位  
富山県

自動車保有台数推移  
普通車: 1.4倍増加 (全国平均1.2倍)  
軽自動車: 7.6倍増加 (全国平均6.4倍)

普通車	軽自動車
1990年	127,276台
2010年	174,954台
普通車	10,826台
軽自動車	82,570台

(自動車保有台数調査報告書【平成23年3月末現在】)  
(出典: 富山県統計課H23国土交通白書H22)

自由に使えない人

自由に使えない車がない: 29.5%

自由に使えない車がある: 70.5%

自由に使えないのは、どんな人？

年代別	割合
80才以上	18.3%
70代	31.1%
60代	21.8%
10代	9.8%
20代	3.7%
30代	2.5%
40代	4.3%
50代	8.5%

※自由に使えない人とは、運転免許がない人や、自分の車を持っていない人を指します。

富山市の65才以上の人口の割合

1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素の量

モード	排出量 (g-CO2)
自動車乗用車	169
バス	49
徒歩	18

(出典: 東京書籍「新しい社会6下」)  
(出典: 国土交通省HP)

### 富山の新しいまちづくり ～まちを元気にする ライトレール～

ライトレールは、地域に密着した安全・安心・快適で、環境にやさしい公共交通を自指して、平成18年4月29日に開業しました。

ライトレールが運行している場所

A3 外面

### なぜ、ライトレールを利用する人が増えたのだろう？

ライトレールの利用者数(平成24年3月末)

平日: 4,815人/日 (前業前2,266人/日)

休日: 3,717人/日 (前業前1,045人/日)

時間帯別利用者数の変化(平日)

年代別利用者数の変化(平日)

#### 富山港線とライトレールを比較してみよう

	JR(富山港線)	ライトレール
運賃	乗車券 切符券売機	カードリーダー バスの販売・積み直し機
車内の様子	乗客が座席に座る様子	乗客が座席に座る様子
乗降口	乗客が乗降口から乗車	乗客が乗降口から乗車
電停	JR富山港線の電停	ライトレールの電停
車両	JR富山港線の列車	ライトレールの車両

#### 時刻表

富山駅発	平日	(平成18年1月)
6時	00 19	52
7時		30
8時	01	34
9時		58
10時		
11時	11	
12時		57
13時		
14時	04	
15時	08	
16時	14	38
17時	18	54
18時		26
19時	11	
20時	08	
21時		23

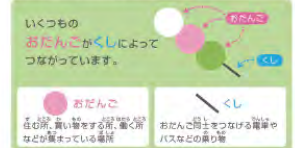
富山駅北発	平日
5時	57
6時	35 53
7時	14 24 35 45 55
8時	05 15 25 35 45 57
9時	08 14 30 45
10時	00 15 30 45
11時	00 15 30 45
12時	00 15 30 45
13時	00 15 30 45
14時	00 15 30 45
15時	00 15 30 45
16時	00 15 30 45
17時	00 15 30 45
18時	00 15 30 45
19時	00 15 30 45
20時	00 15 45
21時	15 45
22時	15 45
23時	15

※のりばは、途中中止ありです。  
※は臨時列車です。(出典: 富山ライトレールHP)

A3 中面

## 富山市の「くしとだんごのまちづくり」

富山市は住む所や買い物をする所がいろいろな場所にちばっているため、車がないと移動するのが不便です。そこで富山市では、家や店などが集中する場所（**おだんご**）を公共交通（**くし**）でつなぐ「くしとだんごのまちづくり」に取り組んでいます。ちばったまちを集中した場所（**おだんご**）に変えて、公共交通を使う人を増やし、公共交通（**くし**）を使いやすくすることで、車を使わなくても移動できるようにしたいと考えています。



富山市交通政策課 東福光晴さんのお話

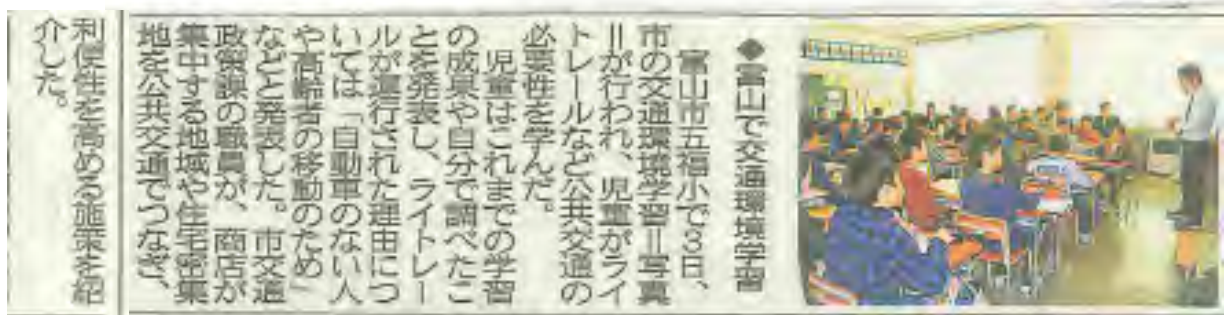
公共交通を便利にすると、高齢者や体の不自由な人など車が使えない人も、気軽に移動できるようになります。また、車の代わりに公共交通を利用すると二酸化炭素の排出量が削減されます。富山市は、「くしとだんごのまちづくり」に取り組むことで、人と環境に優しいまちを目指しています。

富山市交通政策課

A4 片面

### v) 新聞掲載記事

○12月4日(火) 富山新聞



## ②評価

### i) 児童への意識変化アンケート結果

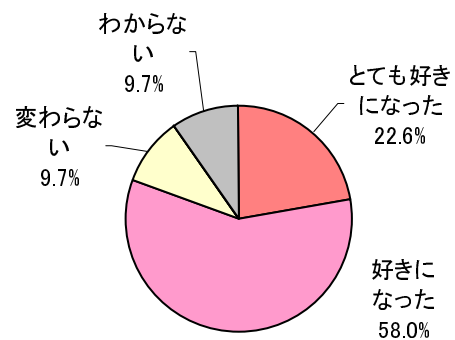
学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の全学習ステップにおいて、7割以上の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

#### 学習ステップ1: 公共交通を好きになる

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？

項目	件数	割合
とても好きになった	7	22.6%
好きになった	18	58.0%
変わらない	3	9.7%
きれいになった	0	0.0%
すごくきれいになった	0	0.0%
わからない	3	9.7%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

80.6%

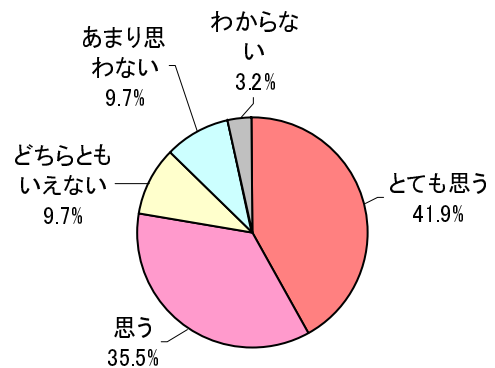


#### 学習ステップ2: 公共交通を利用したいと思う

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？

項目	件数	割合
とても思う	13	41.9%
思う	11	35.5%
どちらともいえない	3	9.7%
あまり思わない	3	9.7%
思わない	0	0.0%
わからない	1	3.2%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

77.4%

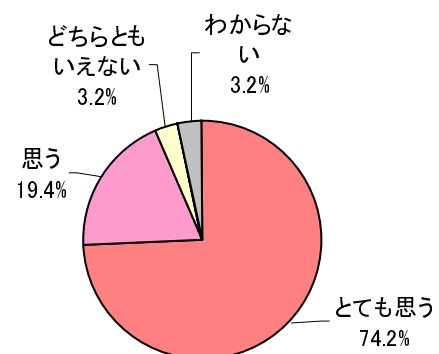


#### 学習ステップ3: 環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問: 授業を受けて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？

項目	件数	割合
とても思う	23	74.2%
思う	6	19.4%
どちらともいえない	1	3.2%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	0	0.0%
わからない	1	3.2%
無回答	0	0.0%
合計	31	100.0%

93.6%



## ii) 検討部会でのご意見と改善案

### ○検討部会でのご意見

- ・多くの教員に取り組んでいただくために、時間数を短くする必要がある。
- ・社会科では、「社会的な思考判断」が重要となる。この場合、対象が公共交通とは限らない。まちづくりなど、もっと広い視点での思考判断となる。
- ・今回の「わたしたちの願いを実現する政治」の単元をライトレールに関する学習と置き換えることは良い。
- ・現在の単元構成だと、児童は住民の願いに関する部分を読み取りづらい。
- ・「まちが元気になる」というのは良い課題である。
- ・社会科の教科書に掲載されている単元構成で授業を行うことで、社会科と富山版モビリティ・マネジメント教育の目的を擦り合わせることができ、「人々の願い」の部分についても含めることができる。全体の時間数を2時限にし、1時限目になぜライトレールがつけられたのかを児童に考えさせる。そして、2時限目にライトレールによってまちがどのように変化したのかを児童に考えさせる。教科書にあるまちの変化に関する資料に、児童用パンフレットを使って説明を加えれば、ライトレールによるまちの変化と、富山市のまちづくりの方針が一致する。
- ・今回、授業前にライトレールへの乗車体験があった児童は少数であった。そのため、五福小学校以外の小学校で今回の授業を実施しても、同様のレベルまでは児童の意見を引き出すことは可能である。

### ②今後のとりくみ

社会科6年生の学習プログラムは、児童から高評価を得ている。ただし、検討部会において、時限数を短くする必要があり、社会科の教科書に掲載されている単元構成をもとに、社会科と富山版モビリティ・マネジメント教育の目的を擦り合わせた学習プログラムの内容となるように再検討が必要というご意見をいただいた。

- 時限数を短くし、社会科の教科書に掲載されている単元構成をもとに学習プログラムの再検討を行う。
- 富山市立五福小学校で教員による公開授業を実施し、学習プログラムを確立する。  
(平成25年12月実施予定)

(5) **総合** 4年生の学習プログラム

①実施結果

i) 実施概要

実施日：平成24年10月10日（水）、11日（木）2時限

実施場所：富山市立東部小学校

実施者：教員

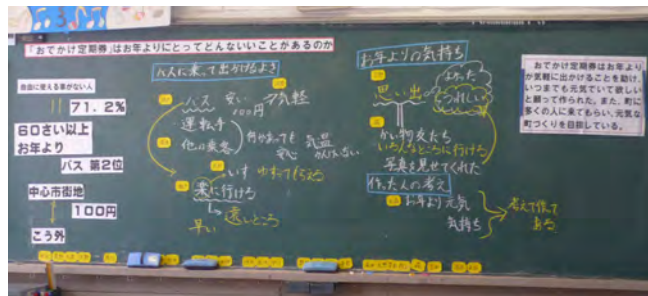
対象校・学年：富山市立東部小学校4年生1クラス

学習プログラム：「おでかけ定期券」って何だろう？

ii) 学習プログラム内容

プログラム名	『おでかけ定期券』って何だろう？
学習のねらい	・市が発行している「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通して、バス交通がお年寄りにも使いやすく整備されていることに気付く。
時限数	・2時限
学習内容	<p>■学習課題 何のために「おでかけ定期券」があるのだろう。</p> <p>○1時限目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おでかけ定期券」について知る。</li> <li>・課題について児童パンフレットで調べ学習を行う。</li> </ul> <p>○2時限目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたことを紹介し合う。</li> <li>・課題について話し合い、「おでかけ定期券」について理解を深める。</li> </ul>
その他	<p>以下のような授業展開も考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1時限目と2時限目の間に、実際の乗車体験やバスの見学などの体験学習を入れる。</li> <li>・2時限目に、富山市交通政策課などからゲストティーチャーを迎え、「おでかけ定期券」の目的についてのお話を直接聞く。</li> </ul>

iii) 授業風景



iv) 児童用パンフレット

### 「おでかけ定期券」は、 こんなところでも使えます。

**富山ライトレール**  
富山ライトレール(ポータラムとフィーダーバス)は、どの駅、バス停で乗りおいても、1回それぞれ100円で利用できます。

**路面電車**  
市内電車は、どの電停で乗りおいても、1回100円で利用できます。

**地鐵電車**  
富山地方鉄道本線、立山線、不二越・上尾線の市内にある駅と、電鉄富山駅、南富山駅の各区間を1回100円で利用できます。

**富山市交通政策課 兼福光晴さんのお話**

おでかけ定期券は、高齢者の方が自分で気軽に、行きたい所に出かけられることを助け、いつまでも元気でいてほしいと願って作られた券です。また、バスや電車で乗って、中心市街地に多くの人に来てもらうことで、交通機関や中心市街地がにぎわい、元気になります。

富山市交通政策課

## 「おでかけ定期券」って何だろう?

有効期限  
平成25年3月31日

**odekake**

「おでかけ定期券」は、富山市に住んでいる65歳以上の人たちが、市内のいろいろな場所から中心市街地に行くときに、100円でバスや電車に乗れる定期券です。

**利用できる人**  
富山市内に住む65歳以上の人

**利用できる交通機関**  
地鉄路線バス・地鐵電車・市内電車・富山ライトレール(ポータラム、フィーダーバス)・まいどはやバス

**割引になる時間帯**  
9時～17時(おりの時間)

**路線バス**

富山市内の全ての路線バスで、中心市街地と市民病院へのお出かけが富山市内のどのバス停からでも1回100円で利用できます。

100円  
100円  
65歳からおとくだね!

外面

### 何のために、「おでかけ定期券」があるの?

自由に乗を使えない人は、どれくらいいるの? (出典:平成18年富山県の公共交通に関する意識調査)

自由に乗を使えない 29.5%  
自由に乗がある 70.5%

自由に乗が使えないのは、どんな人?

年代別	割合
10～19歳	9.8%
20～29歳	3.7%
30～39歳	2.5%
40～49歳	4.3%
50～59歳	8.5%
60～69歳	21.8%
70～79歳	31.1%
80歳以上	18.3%

60歳以上の人が多いんだ

※「自由に乗を使えない人」とは、運転免許がない人や、自分の車を持っていない人を指します。  
※1%は(1人)は、1を100にかけたうちの1割、人が100人いたら、そのうちの1人が1%になります。

### 自由に乗を使えない人は、どうやって出かけるの?

月～金曜日

交通機関	割合
車	33.7%
鉄道	20.1%
市内電車	12.8%
バス	38.8%
タクシー	10.1%
自転車	39.2%
徒歩	28.9%
その他	9.4%

バスや自転車を使う人が多いだね

### 「おでかけ定期券」を使って、どこまで出かけるの?

富山市内のバス路線

どのバス停で乗っても、中心市街地や富山市民病院まで100円なんだよ

広いはいいで、使えるんだね

### 「おでかけ定期券」を使っている人は、どう思っているの?

わしの家は、中心市街地から遠いんだけど、中心市街地まで100円で行って大助かりや。

バスや電車などいろいろな交通機関で使えるから、出かけたかったときに、気軽に行って便利だわ。

「おでかけ定期券」を持つようになってから、出かける回数が増えて、楽しみがふえたわ。そしたら、元気が出てきて、家族に「わかくなった」って言われるのよ。

中面

v) 新聞掲載記事

○10月12日(金) 北日本新聞

**公共交通機関の適切な利用法学ぶ**  
富山市が東部小で学習会

富山市の交通環境学習が11日、同市東部小学校(古木繁行校長)で開かれ、4年生約30人が公共交通機関の役割について理解を深めた。

環境保全や社会の仕組みを学び、自家用車と公共交通を適切に利用できる大人になってもらおうと実施。65歳以上の高齢者を対象に授業を行った。

子どもたちは、おでかけ定期券の利点について考え「料金が安くなるので気軽に外出できる」「家族や友人と出掛ける機会が増え、思い出がたくなる」など意見を発表した。



公共交通機関の役割について学ぶ子どもたち

○10月12日(金) 富山新聞

富山新聞

富山市東部小 児童が意見を発表



**公共交通の大切さ学ぶ** 富山市東部小

富山市の交通環境学習は11日、同市東部小で開かれ、4年生34人が市が発行する「おでかけ定期券」の役割を理解し、公共交通の大切さを学んだ。

児童は事前授業で、高齢者のバス利用状況などを聞いた。

富山市モビリティ・マネジメント教育推進や定期券の特徴を学んできた。この日はバス利用の利点を考え、発表した。引き続き、市交通政策課の担当者から定期券を発行する目的などを聞いた。

富山・大泉中 生徒が清掃奉仕

富山市大泉中の清掃ボランティアは11日、学校近くのいたち川沿道で行われ、生徒80人がごみを拾った。写

卒業の一環として行われ、12月には五福小で授業が行われる。

## ②評価

### i) 児童への意識変化アンケート結果

学習プログラム実施後、全児童に対してアンケートを実施した。以下の全学習ステップにおいて、6割以上の児童が「とても好きになった・とても思う」、「好きになった・思う」と回答しており、学習効果が見られる。

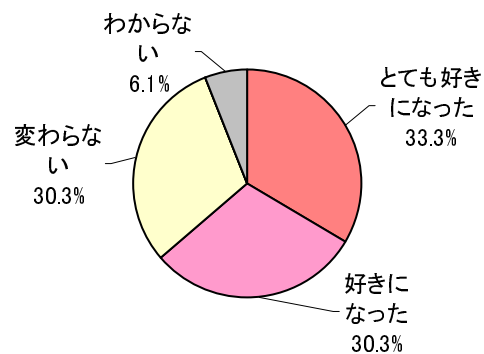
#### 学習ステップ1: 公共交通を好きになる

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムを好きになりましたか？

N= 33

項目	件数	割合
とても好きになった	11	33.3%
好きになった	10	30.3%
変わらない	10	30.3%
きらいになった	0	0.0%
すごくきらいになった	0	0.0%
わからない	2	6.1%
無回答	0	0.0%
合計	33	100.0%

63.6%



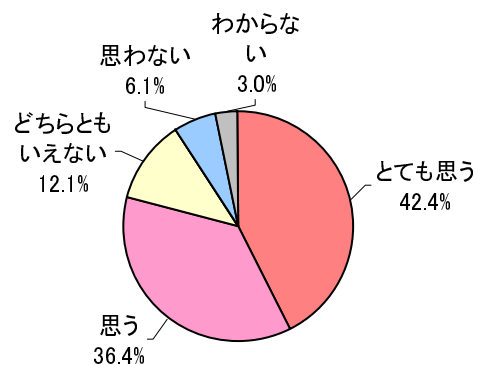
#### 学習ステップ2: 公共交通を利用したいと思う

問: 授業を受けて、バス、電車、ポートラムやセントラムに乗りたいと思いましたか？

N= 33

項目	件数	割合
とても思う	14	42.4%
思う	12	36.4%
どちらともいえない	4	12.1%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	2	6.1%
わからない	1	3.0%
無回答	0	0.0%
合計	33	100.0%

78.8%



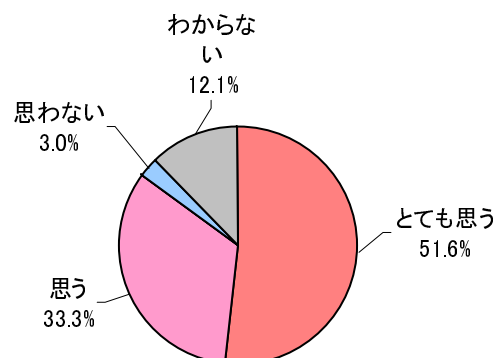
#### 学習ステップ3: 環境や社会のことを考え、公共交通の大切さを理解する

問: 授業を受けて、あなたの住むまちのバス、電車、ポートラムやセントラムは、大切だと思いましたか？

N= 33

項目	件数	割合
とても思う	17	51.6%
思う	11	33.3%
どちらともいえない	0	0.0%
あまり思わない	0	0.0%
思わない	1	3.0%
わからない	4	12.1%
無回答	0	0.0%
合計	33	100.0%

84.9%





## ii) 検討部会でのご意見

- ・4年生の総合的な学習の時間のテーマは福祉の場合が多い。交通に焦点を合わせると、授業を進めていくことは難しい。福祉の観点での学習内容が必要である。
- ・「まちを元気にする」ということが児童には理解が難しい。児童は、中心市街地が衰退している現状が認識できていない。児童は、郊外のショッピングセンター「ファボーレ」に頻繁に訪れているが、中心市街地の西町周辺に訪れた経験は少ない。
- ・4年生で福祉と交通・まちづくりの2つをテーマとすることは難しい。4年生では福祉をテーマとすることがふさわしい。5年生になると福祉の観点よりもまちづくりの観点がふさわしい。来年度は総合的な学習の時間における学習プログラムとして、5年生を対象とした交通・まちづくりをテーマにした学習プログラムを作成することが望ましい。そうすると、4年生では「おでかけ定期券」をつくった3つの理由についての、まちづくりについての内容は、そこまでしっかり児童に理解をさせる必要はなくなる。
- ・「何のために『おでかけ定期券』があるのだろう」が1・2時限を通しての学習課題であったが、学習内容が多いため、学習課題の内容を絞る。1時限目の学習課題は『おでかけ定期券』って何だろう、2時限目の学習課題は『おでかけ定期券』はお年寄りにとってどんないいことがあるのだろうかに変更する。
- ・総合的な学習の時間の学習プログラムとの関連付けを、説明する文章を学習指導案に追加する。
- ・ゲストティーチャーである富山市職員の話した内容の原稿を活用し、教員用の補助教材として用意することで、ゲストティーチャーを招かなくとも授業を実施できる。

## ③今後のとりくみ

総合的な学習の時間4年生の学習プログラムは、児童から高評価を得ている。ただし、検討部会において、4年生は福祉、5年生はまちづくりという学年毎にテーマを分ける必要性や、4年生でおでかけ定期券のある理由①利益増加の観点、②福祉の観点、③まちづくりの観点について全て触れると良いというご意見をいただいた。

- 4年生で取り扱うテーマを福祉に絞り、おでかけ定期券がある理由3点には全て触れる学習プログラムを再検討する。
- 市内1校で教員による公開授業を実施し、学習プログラムを確立する。(平成25年10月実施予定、実施校は未定)

(6) **総合** 5年生の学習プログラム

○今後のとりくみ

検討部会メンバーである教員に中心になっていただき、学習プログラムの企画・実施を行う。

- 市内1校で教員による公開授業を実施し、学習プログラムを確立する。(実施時期、実施校は未定)

(7) まとめ

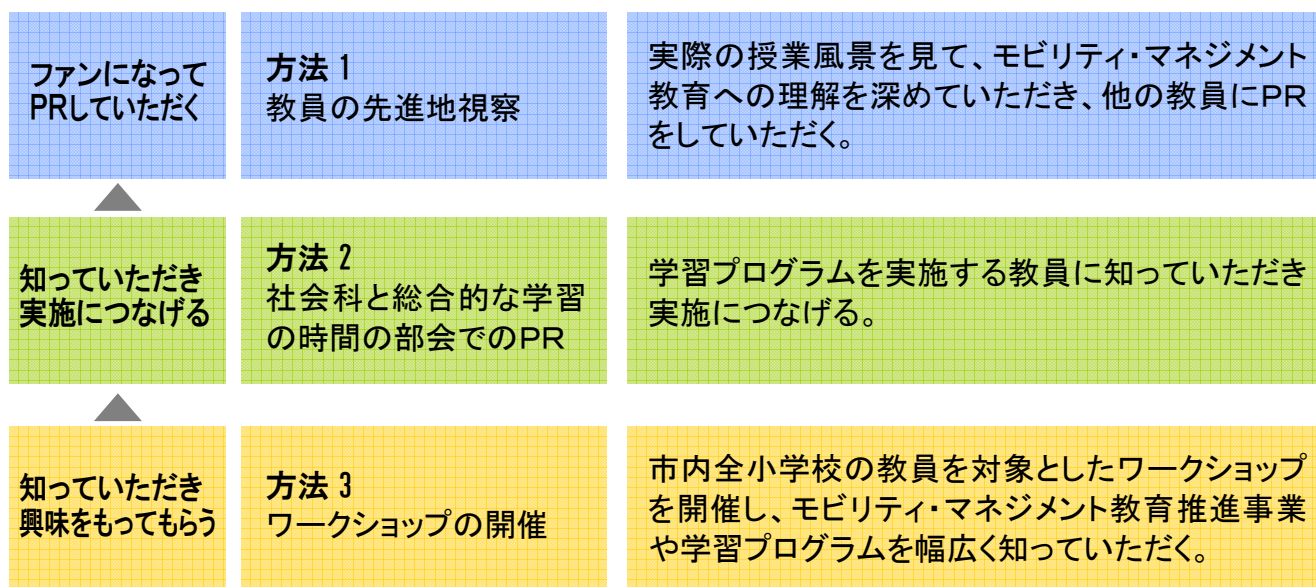
教科	学年	学習プログラム	平成24年度 【ブラッシュアップ】	平成25年度 【確立】
社会科	3年生	富山市の いろいろな乗り物	・公開授業を実施 (富山市立五福小学校) ・学習プログラムの改善	・公開授業を実施 (富山市立五福小学校) ・授業を実施(市内数校)
	4年生	富山県の 交通の様子	・公開授業を実施 (富山市立速星小学校) ・学習プログラムの改善	・公開授業を実施 (市内1校)
	5年生	(未定) ※環境をテーマとした学 習プログラムを検討中	—	・学習プログラムの企画 ・公開授業を実施 (市内1校)
	6年生	富山市の 新しいまちづくり	・公開授業を実施 (富山市立五福小学校) ・学習プログラムの改善	・公開授業を実施 (市内1校)
総合的な 学習の時間	4年生	「おでかけ定期券」 って何だろう?	・公開授業を実施 (富山市立東部小学校) ・学習プログラムの改善	・公開授業を実施 (市内1校)
	5年生	(未定) ※環境をテーマとした学 習プログラムを検討中	—	・学習プログラムの企画 ・公開授業を実施 (市内1校)

## 第4章 教員に対する学習プログラムの普及啓発

### 4-1 普及啓発の方法

富山版モビリティ・マネジメント教育学習プログラムを市内全域で継続的に実施するために、さまざまな方法で教員に事業をPRする。

来年度以降は、以下の3つの方法で普及啓発に取り組むことを目指す。



普及啓発の3つの方法

## 4-2 実施結果

### (1) 教員の先進地視察

#### ①金沢市立小立野小学校における金沢版交通環境学習

視察者	藤嶋広樹(検討部会メンバー、富山市立五福小学校教諭) 富山市職員
実施学年	4年生1クラス(26名)
授業実施者	教員 1名 金沢市歩ける環境推進課職員 2名 コンサルタント 2名
授業内容	<p>○1限目 金沢市の交通について、交通すごろく 金沢市におけるバスについてスライドを見た後、交通すごろくのゲームを通じて環境や社会に配慮したより良い交通手段の選択方法について考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○2限目 交通と環境に関する学習 地球温暖化と交通の関係についてスライドを見た後、すごろくゲームで選択した交通手段による二酸化炭素排出量を計算させ、エコ活動として車の利用を控えることが効果的であることを考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○3限目 標語の作成 1、2限目で学習したことを振り返り、環境・社会を考慮して車利用を控えることの大切さ、バスが環境にやさしい乗り物であることなどを標語にして他者に伝える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

## ②福知山市立成仁小学校における交通環境学習

視察者	津幡和英(検討部会メンバー、富山市立速星小学校教諭) 富山市職員
実施学年	5年生(65名)
授業実施者	教員 1名 京都府建設交通部交通政策課 2名 福知山市役所市民人権環境部生活交通課 1名 京都交通株式会社 4名 コンサルタント 2名
学習目的	地域を支えるバスや公共交通の役割を知ること、地域のためにできることを考える。
授業内容	<p>○バスに関する振りかえり学習(10分間) 普段から利用する交通手段を思い出し、バスが地域のどこを走っているか、またバスの利用状況を学ぶ。(京都府職員による説明)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>○車両見学(40分間) バスに関する全体説明の後、班ごとにバス車両、電気自動車、天然ガス車を順番に見学。(京都交通、京都府、福知山市職員による説明)</p> <div style="display: grid; grid-template-columns: 1fr 1fr; gap: 10px;">     </div> <p>○振り返り及びまとめ(30分間) 座学・車両見学で学習したことを振り返り、バスが地域を支える重要な乗り物であることを学び、バスや電車を大切にするために各自ができることを発表しあう。</p>

## (2) 社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR

社会科部会と、総合的な学習の時間部会において、1回ずつ富山版モビリティ・マネジメント教育に関するPRを実施した。

2. モビリティ・マネジメントとは

モビリティ・マネジメント(Mobility Management, 略称MM)とは、渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを積極的に使う方向へと自発的に転換することを促す、一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを中心とした持続的な一連の取り組みのことを意味します。具体的には、コミュニケーション施策を中心として、様々な運用施策、システムの導入や改善、それらの実施主体の組織の改編や新たな組織の創出などを実施しつつ、持続的に展開していく一連の取り組みを意味する。

日本モビリティ・マネジメント会議より

企業に対する  
モビリティ・  
マネジメント





住民に対する  
モビリティ・  
マネジメント

子どもたちに  
対する  
モビリティ・  
マネジメント

3. モビリティ・マネジメント教育とは

私たち一人ひとりの移動手段や社会全体の交通を『人や社会、環境にやさしい』という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を取れるような人間を育てることを目指した教育活動のこと。

モビリティ・マネジメント教育 教育宣言検討委員会より



金沢市、京都府、大阪府、札幌市、仙台市、御嵩町... など、全国で取り組まれています。

総合的な学習の時間部会における説明資料(抜粋)

## (3) ワークショップの開催

### ○公開授業の開催に合わせたワークショップの開催

平成24年度は、公開授業の開催に合わせてワークショップを開催した(計4回)。ワークショップには、検討部会のメンバーである教員に加え、公開授業が実施された学年と同じ学年を受け持つ社会科部会の教員数名が参加した。



平成24年12月3日(月)

富山市立五福小学校



平成25年1月16日(水)

富山市立速星小学校

## (4) その他

### ○校長会でのPR

平成24年度は11月の校長会において、富山版モビリティ・マネジメント教育に関するPRを実施した。

## 4-3 今後の普及啓発のための取り組み

### (1) 教員の先進地視察

教員の方々に、実際の授業風景を通じて、モビリティ・マネジメント教育への理解、興味を深めてもらうため、先進地への視察を行う。平成25年度は1地域への先進地視察を実施する。現在の候補地は仙台市とし、日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）への参加も含めた視察内容とすることを検討する。

### (2) 社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR

平成25年度についても、各部会において富山版モビリティ・マネジメント教育に関するPRを実施する。

### (3) ワークショップの開催

#### ①公開授業の開催に合わせたワークショップの開催

教員の方々にモビリティ・マネジメント教育への理解、興味を深めてもらうため、公開授業とワークショップを開催する。平成25年度についても、公開授業の開催に合わせたワークショップを開催する。

#### ②市内全小学校教員を対象としたワークショップの開催

平成25年度は、富山市内における全小学校を対象としたワークショップを開催する。開催内容（案）として、学識経験者や先進的にモビリティ・マネジメント教育に取り組んでいる地域の小学校教員を招いての講演会、参加教員を交えた意見交換会などを行うことが考えられる。

#### (4) その他

##### ①校長会でのPR

校長にモビリティ・マネジメント教育への理解、興味を深めてもらうため、校長会でモビリティ・マネジメント教育推進事業のPRを実施する。平成24年度に引き続き、平成25年度は5月と11月の校長会でのPRを実施する。

##### ②富山市教育委員会との連携

「富山市学校教育指導方針」に富山版モビリティ・マネジメント教育に関する情報を掲載することを目指し、市教育委員会との協議を進める。

##### ③カレンダーの作成

現場の教員が富山版モビリティ・マネジメント教育に取り組みやすくするため、平成25年度中にESDカレンダーのモビリティ・マネジメント版のカレンダー（社会科、総合的な学習の時間との関連付けを示した資料）を作成する。



## 第5章 保護者を含めた市民への啓発活動

### 5-1 実施結果

#### ○第七回 日本モビリティ・マネジメント会議（JCOMM）

○平成24年8月4日（土）

時 間	項 目	概 要
<b>モビリティ・マネジメント教育推進事業成果発表</b>		
10:00~10:20	成果発表	富山市立五福小学校でのモビリティ・マネジメント教育の成果を発表する。
<b>大学生によるモビリティ・マネジメント成果発表</b>		
10:20~10:40	街なかメイクアップ サポーターによる報告	富山大学新生を対象に作成した「街なかマップ」を使ったモビリティ・マネジメントの成果を発表する。
<b>ルールライフ実践人インタビュー</b>		
10:40~11:00	ルールライフ実践人 インタビュー	暮らしの中で公共交通を活用している市民に、公開インタビューを行い、事例を紹介する。
<b>ミニシンポジウム</b>		
11:00~12:00	学識経験者等による シンポジウム	本市の公共交通活性化に向けた取組みについて、学識経験者を交えたシンポジウムにて討議を行い、富山型モビリティ・マネジメントのあり方について意見交換を行う。 コーディネーター：谷口 守氏（筑波大学教授） パネリスト：高山純一氏（金沢大学教授） 神田昌幸氏（富山市副市長）ほか
<b>オープニングセッション</b>		
13:00~13:15	挨拶	主催者挨拶（石田委員長）及び来賓祝辞（最勝寺北陸信越運輸局長）
13:15~14:15	市長特別講演	森市長による特別講演を行う。
<b>JCOMM賞授賞式</b>		
14:15~15:00	JCOMM賞の授与	今年度本市が受賞予定のJCOMMプロジェクト賞ほか各賞（マネジメント賞、デザイン賞、技術賞）の授賞式を行う。
<b>研究発表</b>		
15:00~18:00	口頭・ポスターによるセッション	全国のモビリティ・マネジメントに関する研究について、口頭及びポスターセッションにより発表する。
<b>意見交換会</b>		
18:30~20:00	意見交換会	主催者挨拶（石田委員長）、来賓挨拶（前川北陸地方整備局長）及び開催地挨拶（森富山市長）

○8月5日（日）：研究発表

時 間	項 目	概 要
<b>研究発表</b>		
9:00~16:00	口頭・ポスターによるセッション	全国のモビリティ・マネジメントに関する研究について、口頭及びポスターセッションにより発表する。

## 5-2 今後の啓発のための取り組み

### (1) とやまレールライフ・プロジェクトとの連携

来年度2月頃に開催予定である「とやまレールライフフォーラム」と連携し、富山版モビリティ・マネジメント教育のPRを実施する。

### (2) グランドプラザとの連携

グランドプラザと連携して子どもと保護者を対象としたモビリティ・マネジメント教育に関するイベントを開催する。今後の継続的な開催に向けて、グランドプラザが実施しているイベントとタイアップできる可能性について関係機関と協議を進める。

#### 【参考】グランドプラザイベント例



チャックパーク



街なかお絵かきプロジェクト

## 第6章 今後のスケジュール

### 6-1 3カ年の進め方

検討項目		スケジュール		
		平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
社会科	3年生	○ 検討 公開授業を実施 (富山市立五福小学校)	○ 検討 公開授業を実施 (富山市立五福小学校)	● 確立 公開授業を実施 (富山市立五福小学校) 授業を実施 (市内数校)
	4年生	○ 検討 公開授業を実施※ 寺本教授 (富山市立五福小学校)	○ 検討 公開授業を実施 (富山市立速星小学校)	● 確立 公開授業を実施 (市内 1 校)
	5年生			● 検討・確立 公開授業を実施 (市内 1 校)
	6年生		○ 検討 公開授業を実施 (富山市立五福小学校)	● 確立 公開授業を実施 (市内 1 校)
総合的な 学習の時間	4年生		○ 検討 公開授業を実施 (富山市立東部小学校)	● 確立 公開授業を実施 (市内 1 校)
	5年生			● 検討・確立 公開授業を実施 (市内 1 校)
副読本掲載に向けて			← 検討部会で 材料の検討・準備	← 編集委員会で 検討
教員・市民への普及啓発		← 仕組みづくり の検討	← 仕組みづくり の検討	← 普及啓発の 仕組みを確立

## 6-2 来年度の進め方

### (1) 今年度のまとめ

#### ①今年度のまとめ

##### i) 学習プログラムの企画・実施

学習プログラム	今年度の実施内容	評価内容	今後のとりくみ
<b>社会科</b> 3年生 「富山市のいろいろな乗り物」	○学習プログラムの実施(H24.5.29(火)30(水)/富山市立五福小学校3年生1クラス) ○学習プログラムの評価(検討部会) ○学習プログラムの再企画	・授業の落としどころを、「いろいろな公共交通があって便利」に変更 ・「くしとだんごのまちづくり」に関する簡易的が学習を残す ・学習プログラムの再企画を行った内容については、検討部会のメンバーである教員から高い評価を獲得	●3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載 ●3年生社会科「市の様子」(6~7月実施)と関連づけた学習プログラムの実施 ●学習プログラムの確立
<b>社会科</b> 4年生 「富山県の交通の様子」	○学習プログラムの企画 ○学習プログラムの実施(H25.1.16(水)/富山市立速星小学校4年生1クラス) ○学習プログラムの評価(児童アンケート、検討部会)	・児童から高い評価を獲得 ・社会科と富山版モビリティ・マネジメント教育を融合した学習プログラムを開発するため、社会科を中心として、富山版モビリティ・マネジメント教育の要素を入れ込んだ学習プログラムの再企画が必要	●3・4年生社会科の副読本『わたしたちの富山市』への掲載 ●4年生社会科「わたしたちの富山県」(12~3月実施)と関連づけた学習プログラムの改善・実施
<b>社会科</b> 6年生 「富山市の新しいまちづくり」	○学習プログラムの企画 ○学習プログラムの実施(H24.11.29(木)30(金)、12.3(月)/富山市立五福小学校6年生1クラス) ○学習プログラムの評価(児童アンケート、検討部会)	・児童から高い評価を獲得 ・時間数を短くすることが必要 ・「住民の願い」と「まちが元気になる」という部分に関する学習内容を充実させるため、社会科の教科書に掲載されている単元構成を参考に再企画が必要	●6年生社会科「わたしたちの願いを実現する政治」(12月頃実施)と関連づけた学習プログラムの改善・実施
<b>総合</b> 4年生 「『おでかけ定期券』って何だろう」	○学習プログラムの企画 ○学習プログラムの実施(H24.10.10(水)11(木)/富山市立東部小学校4年生1クラス) ○学習プログラムの評価(児童アンケート、検討部会)	・児童から高い評価を獲得 ・4年生で「福祉」と「交通・まちづくり」の2つをテーマとすることは難しいため、主なテーマを「福祉」に絞る ・5年生で「交通・まちづくり」を主なテーマとした学習プログラムを企画する ・4年生と5年生の両方で、おでかけ定期券のある理由①利益増加の観点、②福祉の観点、③まちづくりの観点には全て触れる	●4年生社会科と関連づけた総合的な学習の時間の学習プログラムの改善・実施

## ii) 教員への普及啓発

今年度の実施内容	評価内容	今後のとりくみ
<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員の先進地視察の実施 (金沢市、福知山市)</li> <li>○社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR</li> <li>○富山市立五福小学校(2回)、富山市立東部小学校(1回)、富山市立速星小学校(1回)において、教員向け公開授業とワークショップの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加教員による活発な意見交換を実施</li> <li>・普及啓発の仕組みづくりが必要</li> <li>・教員に対して、継続した本事業の周知が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教員の先進地視察の実施</li> <li>●社会科と総合的な学習の時間の部会でのPR</li> <li>●教員向け公開授業とワークショップの開催</li> <li>●市内全小学校教員を対象としたワークショップを開催</li> <li>●富山市教育委員会との連携</li> <li>●校長会でのPR</li> <li>●カレンダーの作成</li> <li>●普及啓発のための仕組みを確立</li> </ul>

## iii) 保護者を含めた市民への啓発活動

今年度の実施内容	評価内容	今後のとりくみ
<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本モビリティ・マネジメント会議における、実施校による成果発表の実施(H24.8.3(金)~5(日))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体や部署との連携による普及啓発の仕組みづくりが必要</li> <li>・市民に対して、継続した本事業の周知が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●とやまルールライフ・プロジェクトと連携した啓発活動の実施</li> <li>●グランドプラザと連携した啓発活動の実施</li> <li>●普及啓発のための仕組みを確立</li> </ul>

(2) 今後のスケジュール

